

# 今年こそ はじめよう

PWC(水上オートバイ)が走っているのを見て、海外のレンタルで体験して、国内で友人の後ろに乗せてもらって。PWCに興味を持つきっかけは様々だけど、そこで自分でも乗ってみたいと思ったらどうすれば良いの？ そんな疑問にお答えします!!



PWCに興味を持って、実際に乗っている知人がいる場合を除き、自分で乗るためにはどうすれば良いのか、わからないことばかりだろう。PWCに乗るためになにが必要？ どうやって遊ぶ？ どこで乗れる？ などなど……。

そんな疑問を解消する一番の近道は、専門ショップに足を運んでみることだ。PWCに興味があるのなら、知識はゼロでかまわない。その道のプロが、どんな疑問にも答えてくれるからだ。

それでも専門ショップに足を運ぶ前に、少しは知識を仕入れておきたいひとのために、駆け足でPWCのアレコレを紹介してみる。



## ※ 免許は2日で取得可能!!

**PWCを操縦するには専用免許が必要です**

手漕ぎボートやヨット、全長3メートル未満でエンジン出力が1.5kw未満のボートを除き、日本でボートやPWCを操縦する場合には、小型船舶操縦士免許が必要となる。この小型船舶操縦士免許は操縦できる範囲や船種によって、4種類にわかれている(イラスト参照)。そのなかで、PWCを操縦するために必要なのが、特殊小型船舶操縦士免許だ。

特殊小型船舶操縦士免許の取得資格は16歳以上で、15歳9か月から受験が可能。なお、特殊小型船舶操縦士免許で操縦できるのはPWCだけで、ボートの操縦はできない。逆に、一級・二級小型船舶操縦士免許を持っていても、PWCの操縦はできないので注意

してほしい。

この特殊小型船舶操縦士免許の取得方法だが、民間の講習を受講して国家試験を受ける「免許スクール」と、国土交通省に登録されている民間企業の小型船舶教習所に入校する「登録小型船舶教習所」(教習所の学科・実技終了審査に合格すれば、国家試験免除)、さらに独学でも不可能ではない。

このなかで利用者が多いのが、免許スクールだ。特殊小型船舶操縦士免許スクールの場合、講習に1日、国家試験に1日の計2日というスケジュールが一般的。費用は場所により様々だが、4.5~7.5万円程度を考えておけば大丈夫だろう(交通費などは除く)。なお合格率は90%以上となっている。

※試験的に1日コースもスタート

水上オートバイ

# PWCライフ!!

## どこで乗る？ どうやって遊ぶ？

周囲を海に囲まれた日本。川や湖も多く、どこでも自由にPWCに乗れそうだが、実はそうではない。条例などでPWCの乗り入れが禁止されている水面もあるし、乗り入れ可能でも、走行エリアやルールが決められている水面もある。どこで乗れてどんなルールがあるのかは、PWC専門ショップで確認してみよう。

PWCでどうやって遊ぶか。右にいくつか例を挙げていますが、これ以外にも楽しみ方は様々にある。ただしPWCがランナバウトかスタンドアップか、ゲレンデが海か湖かで、それぞれ得意な遊びは異なる。自分がどんな風にPWCを楽しみたいのか、最初にイメージしておくことも必要だろう。



## どこで買う？

**専門ショップで購入しよう!!**



インターネットで検索すれば、PWC本体からウェアなどの用品まで、なんでも安い値段で購入できるし、オークションなどの個人売買も盛んな時代だ。

だけど、ちょっと待ってほしい。確かにインターネットでは安く買える物が出て最初はお得かもしれないが、後々のことを考えると、かえってマイナスに作用することも多いからだ。

特にPWC本体などは、買った後に必ずメンテナンスが必要になる。その場合、まったく縁のないPWC専門ショップに持ち込んでも、良い顔はされないう(作業を断られる可能性もある)。

長くPWCを楽しむためにはやはり、自宅もしくは利用するゲレンデに近い専門ショップから購入するのがベストだ。

なお、ツーリングなどのイベントを積極的に開催しているところもあれば、レースに力を入れているところなど、ショップの性格や得意分野は様々。自分のスタイルに合ったショップを選ぶことが、充実したPWCライフへの近道だ。

## ルールとマナーを守って楽しもう!!

酒酔い操縦の禁止や自己操縦、危険操縦の禁止や救命胴衣の着用義務など、小型船舶操縦士免許の遵守事項だけでなく、先ほども書いたように、PWCのゲレンデには様々なルールが設けられている場合もある。これらのルールを遵守するのはもちろんだが、さらに、マナーを守って遊ぶことを心がけたい。

たとえば、クルマは決められた場所に停める。民家の近くで乗らない。陸上でPWCを空ぶかす際はシートやエンジンフードをかぶせ、排気口を水面に向ける。他のマリネジヤを尊重する。ゴミは必ず持ち帰るなど、心がけ次第でできることはたくさんあるのだ。ルールとマナーを守って、安全にPWCを楽しんでほしい。



イラスト/ヤスタ コージ

# PWC

## を楽しもう!!

### ゲレンデを守るのはあなたです

PWC を楽しむ際にはいくつかの守るべきルールとマナーがあり、そのすべてではないが、一部をこのページにて紹介している。このページに掲載した項目もそれ以外の項目についても、その根本は『人に迷惑をかけない』ということだ。ゲレンデ周辺地域に住む人々、他のマリンスポーツを楽しむ人に迷惑をかけない、ということを中心にすれば、それだけで多くの問題は解決できるはず。貴重なゲレンデを守るためにも、この心がけを実践してほしい。

### ゲレンデ固有のローカルルールを遵守する

ゲレンデにはそれぞれの場所ごとに固有のローカルルールがあり、その内容は PWC が走行できる範囲であったり時間、禁止事項の設定など多岐にわたる。このローカルルールは多くの場合、看板というカタチでゲレンデに設置されているので、PWC に乗る前に必ずその内容を確認しよう。また、例えこのような看板がなくとも、場所ごとのルールは必ず存在すると考え、もし近くに PWC を楽しんでいる人がいたら声を掛けて聞いてみるという勇気も必要だ。

### ゴミは必ず持ち帰りゲレンデをきれいに保つ

ゴミは必ず持ち帰る。この当たり前のことが、意外と守られていないというのが現実だ。ひとつのゴミが捨てられるとゴミがゴミを呼び、その周囲はあっという間にゴミの山になってしまう。であるから、PWC で楽しんだ後は自分たちの出したゴミを必ず家まで持ち帰るということはもちろん、たった 1 個でもいいから捨てられていたゴミを持ち帰る気持ちを持ちたい。そうすればいつか必ずゲレンデはキレイになり、誰もが気持ちよく PWC を楽しめるはずだ。

### 車やトレーラーなど違法駐車はしない

ゲレンデにでかける際、PWC ユーザーのほとんどがクルマを使うはずであり、それ以外にもトレーラーを牽引している場合もある。このクルマとトレーラーは道路に駐車したりせず、決められた場所に停めること。道路に駐車すると渋滞や事故の発生原因となり、地域住民の方々には大きな迷惑がかかるからだ。また大勢でゲレンデに行く際は、何人かで乗り合わせてクルマの台数を減らすという配慮も必要。そうすれば、より多くの人が駐車場を利用できるからだ。

### 無免許・免許不携帯で PWC を操船しない

平成 15 年の 6 月に免許制度が改正となり、それに併せて免許所有者と同乗した無免許者の操船が禁止となった。習慣でついつい、ということが無いように、これまで免許所持者と同乗して楽しんでいた人も、この機会に免許を取得してはどうかだろう。ただし、免許区分も改正となり、新たにボートの免許を取得しても PWC の操船はできないので注意。PWC を操船するためには『特殊小型船舶操縦士免許』という専用免許が必要となるのでお間違えなく。

### 自分の命を守るためライフベストは必ず着用する

充分にご存じだとは思いますが、ライフベストとは自分の命を守るためのもの。陸上と違い、水上ではちょっとしたアクシデントがそのまま生命の危機につながる場合が多い。例えば水面が穏やかで、陽差しが厳しくて暑くとも、ライフベストは必ず着用すること。またライフベストを選ぶ際は、形状や色といったファッション性だけでなく、しっかりと身体にフィットするものを選ぶことが大切。小さな子どもには専用タイプがあるので、水辺では常に着用させよう。

### お酒を飲んで操船しない

お酒を飲めば、当然の事ながら誰もが酔う。そして自覚症状のあるなしに関わらず、思考力と判断力が確実に低下し、普段ならまったく問題のない様な場面でも思わぬケガや事故を招いたりする。PWC もクルマやオートバイと同様にエンジンの付いたノリモノであり、充分に凶器にもなりうる。そのことを良く理解し、お酒を飲んだら絶対に操船しないということを強く徹底すること。特に夏場は誘惑が多いので要注意。アルコールは帰宅してから楽しもう。

### 騒音を増すような違法な改造はやめよう

ゲレンデにたとえ 1 艇でも騒音を撒き散らして走っている人がいると、PWC 全体が同じく“うるさい”という印象を持たれてしまう。そのような人は自分の満足のために周囲の人に迷惑をかけ、ひいてはゲレンデ閉鎖のきっかけになるなど、自分自身の首をも絞めているということを認識しよう。それに、いまの PWC は改造などしなくても十分に走りを楽しめる性能を持っている。騒音を増すような違法改造などはすでに昔のものであり、不要なものなのだ。

### 住宅地や早朝の走行には十分に注意しよう

PWC の走行可能時間は日の出から日没までと決められているが、早朝は十分に注意を払い、付近に住宅がある場合などは乗らないようにするという配慮は絶対に必要。またゲレンデのそばに住宅が建ち並んでいるような場所では、例えそこが認められたゲレンデであっても音の問題を考え、普段以上に大きな音を出さないように心がけたり、乗るのをあきらめる勇気が必要。ゲレンデ周辺に住む方々の生活環境を守るのも、PWC ユーザーの責任だ。

### 他のマリンレジャーを楽しむ人を尊重しよう

PWC を楽しむことができるゲレンデは、そのまま様々なマリンレジャーを楽しむことができる場所でもあり、夏ともなれば、多くの人々ががーか所に集中してしまう。このような場面では、他のマリンレジャーを楽しむ人に対し垣根をつくって拒絶するのではなく、譲り合い、相手を尊重する気持ちで接することが大切だ。そうすれば無用なトラブルの発生を未然に防ぐことができるし、なによりも互いに気持ちよく 1 日を楽しめるはずだから。